
アンコール・ワット西参道技術交流研修委員会 ：カンボジア委員の日本現場視察調査報告

三輪 悟
上智大学アジア人材養成研究センター研究員

1. 出張事業名：

第二回アンコール・ワット西参道技術交流研修委員会（カンボジア委員）

2. 出張目的：

アプサラ機構総裁と遺跡保存局の局長以下技術者を日本へ招聘し、日本においてカンボジア王国アプサラ機構のアンコール遺跡の保存管理努力につき報告し、その活動を周知・広報する。また京都の世界文化遺産木造建造物群の保全状況を視察し、修復理念、現場設営・管理、公開状況につき学び、今後のアンコール遺跡群の管理と保存修復に資することを企図する。

3. 出張先：

日本（東京、京都）

4. 出張者名：以下8名（内訳：アプサラ機構6名、上智大学2名）

- ① H.E.Mr. Bun Narith ブン・ナリット（アプサラ機構総裁）
- ② H.E. Mr. Ros Borath ロス・ボラット（アプサラ機構副総裁）
- ③ Mr. Ly Vanna リ・ヴァンナ（アプサラ機構 DCMA 局長）
- ④ Mr. Tann Sophal タン・ソパル（アプサラ機構 DCMA 副局長）
- ⑤ Mr. Mao Sokny マオ・ソックニー（アプサラ機構 DCMA 職員）
- ⑥ Mr. An Sopheap アン・ソピアプ（アプサラ機構 DCMA 職員）
- ⑦ 三輪 悟（上智大学研究員、引率責任者）
- ⑧ ラオ・キム・リアン（上智大学研究員、通訳担当）

5. 出張期日・期間：

平成 27 年 3 月 22 日（日）～平成 27 年 3 月 27 日（金）

6. 旅程概要：

- 3月22日（日）カンボジア（シェムリアップ）発
3月23日（月）成田着、上智学院理事長表敬、国際交流基金理事長表敬、外務省表敬、技術交流会、歓迎会
3月24日（火）東京→京都移動、仁和寺、金閣寺、梨木神社
3月25日（水）清水寺、知恩院、奥谷組資料館、東寺
3月26日（木）京都→東京移動、新宿、虎ノ門ヒルズ
3月27日（金）東京→成田、成田→カンボジア（シェムリアップ）着

7. 出張報告書

(1) 視察・研修の内容

①東京

a. 上智大学表敬訪問

【日時】 3月23日（月）11:30～12:00

【相手方情報】 高祖敏明（学校法人上智学院理事長）
山岡三治（上智大学国際交流担当理事）

【表敬】 石澤良昭が同行し挨拶。高祖敏明上智学院理事長がブン・ナリットアプサラ総裁一行を歓迎する挨拶。アプサラ総裁からはこれまでの上智大学による人材育成他遺跡保護の協力へのお礼が述べられ、今後の西参道修復工事着手に向けてMOU調印を急ぎたい旨、前向きな話があった。

b. 国際交流基金表敬訪問

【日時】 3月23日（月）14:00～14:30

【相手方情報】 安藤裕康（国際交流基金理事長）
下山雅也（国際交流基金アジアセンター部長）

【表敬】 石澤良昭が同行し挨拶。アプサラ総裁からは国際交流基金の支援協力に対するお礼が述べられた。国際交流基金理事長からは今後カンボジアに基金の事務所を開設する旨、話があった。

c. 外務省表敬訪問

【日時】 3月23日（月）15:00～15:15

【相手方情報】 岡庭 健（外務副報道官、審議官（報道・広報・文化交流担当））

【表敬】 石澤良昭が同行し挨拶。本年10月頃にODA機材がカンボジアに到着する件に触れ、アプサラ総裁より日本政府の協力に対してお礼が述べられた。審議官からはカンボジア人による遺跡保存修復が行われることに対して、人材が育っている環境に対して賛辞が述べられた。

d. 技術交流研修委員会プログラム

【日時】 3月23日(月) 17:00～18:00

【相手方情報】 西参道技術交流研修委員会(平山善吉日本大学名誉教授ほか、日本側)

【交流】 アプサラ機構総裁以下全員より発表を行った。その後平山善吉、三輪悟が発表を行い、その後意見を取り交わした。

e. 歓迎会

【日時】 3月23日(月) 18:00～19:30

【出席者情報】 高祖敏明上智学院理事長、今川幸雄元カンボジア大使、高橋文明元カンボジア大使、小川郷太郎元カンボジア大使ほか30余名。

f. 虎ノ門ヒルズ

【視察項目】 再開発の跡地の状況

【視察日時】 3月26日(木) 18:30～20:00

【所見】 2014年6月にオープンした虎ノ門ヒルズ(地上274m)は官民連携による開発で、道路事業と再開発事業が一体化したものの。都内の最新の開発事例の一つとして視察した。人々が集まる多様な場として、2Fに地域の核となる広場を設けている。1964年東京オリンピックでは日本橋の上に高架道路を掛けたが、2020年東京オリンピックを前に、ここでは道路を地下に収納した。

②京都

a. 仁和寺

【視察項目】 修復工事・理念、現場管理、観光客の安全

【視察日時】 3月24日(火) 13:30～15:30

【視察先名】 仁和寺：真言宗御室派総本山。仁和2年(886)に寺の建立が始められた。

観音堂：寛永18年～正保元年(1641-44)にかけて建立。半解体修理を実施中。

御影堂：^{みえどう} 桧皮葺きの屋根の修復

土堀：版築工法で工事中

*仁和寺は平成6年「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。

【相手方情報】 吉田 理(京都府教育庁指導部文化財保護課 主査)により二棟案内

榊谷貴史(株式会社上宗建設 建築課長)により土堀案内

*千田真由美(奥谷組)同行

【現状】 素屋根の下で修復工事が続く。御影堂は屋根もほぼ葺き終えており完成が近い。

【所見】 日中英韓の看板表記とその背景の話などは興味深かった。御影堂では桧皮葺き構造を目前で見ることができた。土堀の版築工事は日本の現場でもなかなか見ることのできない希少な作業であった。道具や工法の知見は西参道の現場で直接的に

役立つと思われる。

b. 金閣寺

- 【視察項目】 最も人気のある世界遺産建造物の観光のマネジメント、見学手法
- 【視察日時】 3月24日（火）15:50～16:45
- 【視察先名】 臨濟宗相国寺派鹿苑寺 舍利殿（金閣）
*金閣寺は平成6年「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。
- 【相手方情報】 千田真由美（奥谷組）同行・解説
- 【現状】 人気観光地であり、多くの観光客が訪問している。近年拝観は一方通行のルールが設けられている。舍利殿の内部は拝観不可。
- 【所見】 駐車場の整備状況始め、観光客の誘導（一方通行規制）など、超有名観光地におけるマネジメントの事例を観察することができた。

c. 梨木神社

- 【視察項目】 京都御所との位置関係、景観配慮、マンション建設の背景と工事の進捗
- 【視察日時】 3月24日（火）16:55～17:10
- 【視察先名】 梨木神社
- 【相手方情報】 千田真由美（奥谷組）同行・解説
- 【現状】 梨木神社は施設の管理費に困り、京都御苑の東隣にある境内にマンション建設を進めている。工事に際して神社本庁の承認が得られず、本庁を離脱して工事に着手した。ただし開発業者への土地の貸し出しは60年間の期限付き。
- 【所見】 文化遺産建造物の保護に際し、日本においても資金難に苦しみ苦汁の判断を迫られている事例を視察できた。

d. 清水寺

- 【視察項目】 修復工事・理念、現場管理、観光客の安全、仮設観光通路の建設
- 【視察日時】 3月25日（水）09:30～11:45
- 【視察先名】 音羽山清水寺：本堂は寛永10年（1633）の再建。
轟門：全解体修理、耐震対策の構造補強（島田豊）
阿弥陀堂：屋根の修理（小宮睦）
奥院：半解体修理（小宮睦）
*清水寺は平成6年「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。
- 【相手方情報】 小宮 睦（京都府教育庁指導部文化財保護課建造物担当副課長）
島田 豊（京都府教育庁指導部文化財保護課主査（技術職員・建築））
*千田真由美（奥谷組）同行
- 【現状】 轟門は全解体を行っており、現在基礎部分の発掘調査の最中。

【所見】 木造建造物の部材修理手法、建物の当初配置への復元についての考え方、地震を念頭においた構造補強の方法と判断、観光客の安全な誘導のための迂回路建設、など多角的に参考になる点が多く、多くを学ぶことができた。

e. 知恩院

【視察項目】 修復工事・理念、現場管理、観光客の安全、素屋根

【視察日時】 3月25日（水）14:00～16:00

【視察先名】 知恩院国宝御影堂^{みえいどう} 平成大修理現場

【相手方情報】 浅井健一（京都府教育庁指導部文化財保護課）

【現状】 素屋根の下で解体の工程を終えて、再構築を行っている。

*筆者は2013年10月22日にも同現場にて浅井健一による説明を受けている。

【所見】 大規模構造物に対して全体を覆う素屋根を構築している。その場合においても地中埋設構造物に対する配慮として、杭を打たないなど慎重な配慮を行っている態度に、文化財建造物に対する細心の配慮の事例を学ぶことができた。

f. 奥谷組社屋（奥谷組資料館を含む）

【視察項目】 社寺建設の専門工務店、奥谷組資料館

【視察日時】 3月25日（水）16:30～18:00

【視察先名】 株式会社奥谷組 奥谷組一級建築士事務所

【相手方情報】 千田日出雄（株式会社奥谷組代表取締役）より社屋と資料館を案内

*千田真由美（奥谷組）同行

【現状】 奥谷組社長が自らご説明くださった。

【所見】 日本の伝統的な木造建築の知恵やそこに見られる面白さを、実物大の模型を目の前にして学ぶことができた。とくにスケール1：1の実寸図を描いて作業する様子などは、今後の西参道工事においても必要に応じて取り入れたい手法と思われた。

g. 東寺

【視察項目】 世界遺産寺院の夜間ライトアップ観光の事例

【視察日時】 3月25日（水）18:30～19:00

【視察先名】 真言宗総本山教王護国寺（東寺）

*東寺は平成6年「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。

【相手方情報】 一般参観（案内人はとくになし）

【現状】 夜間のライトアップ観光

【所見】 駐車場の管理や人員配置、安全のための対策など参考になった。日本一高い五重塔のライトアップは壮観であった。夜間は見学範囲を限定するなど、アンコールの今後の観光にも参考になると思われる。

(2) 今後

石造建造物であるアンコール遺跡群の管理責任者が木造建築を主とする京都の寺院群の保存修復事例から何を学ぶのか、これは大きなテーマであるが、事前の想定以上に多くを学ぶことができたと考えている。以下に事例を挙げる。

- ①カンボジアを代表する観光地アンコールと日本一の人気観光地京都の多面的な比較
- ②石と木の素材を越え、文化財建造物への慎重な姿勢と保存修復への取り組みから学ぶ
- ③文化財建造物群を「観光」という側面の中で活かしながら護る方法の事例として
- ④文化遺産を護る際の「予算面」における諸事例を学ぶ
- ⑤「オーセンティシティー」の認識と木造建築での実際の取り組み事例について

カンボジアにおけるアンコール（シェムリアップ市）、日本における京都市は共に古都であり、各国を代表する観光地となっている。双方とも世界遺産指定を受けた多くの文化遺産建造物群を抱える。その価値は今更説明が要らないほどである。

具体的には、カンボジアは年間450万人（2014年実績）の外国人が訪れ、内約半数の250万人がアンコール遺跡群を訪問している。一方日本は年間1,340万人（2014年実績）の外国人が訪れ、うち183万人の外国人が京都に宿泊している。京都を訪問する観光客（日本人含めた総数）は年間5,560万人（2014年実績）にのぼり、圧倒的な人気を誇る日本有数の観光地となっている。

今後もカンボジアの遺跡保護に携わる関係者が京都を視察することで学ぶことは多い。継続的に

研修・視察を実施することで、その理解を深めて行きたいと考えている。そのことでアンコール遺跡群の保護政策の質の向上に大いに寄与することができるといえる。



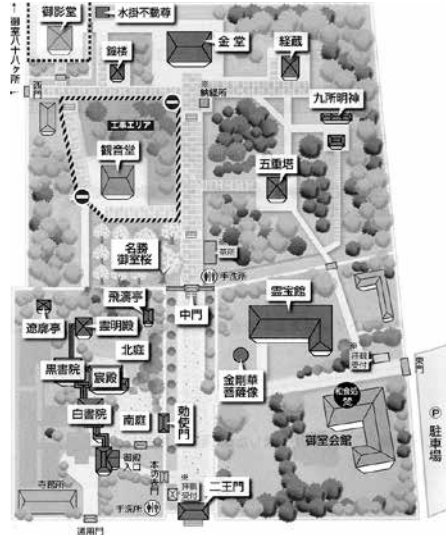
(3) 写真・図版

京都視察先地図

7-(1)-②-a 仁和寺



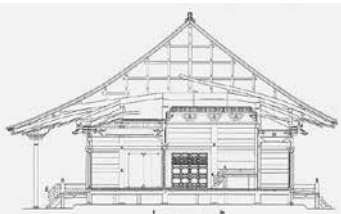
寄付金募集の案内



仁和寺配置



京都府教育委員会発行の資料



修理前の観音堂全景と断面図



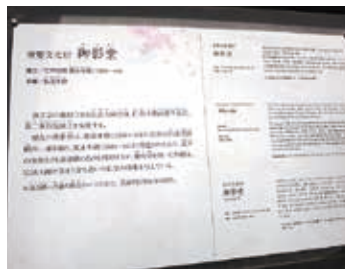
観音堂覆い屋



観音堂



御影堂 (みえどう)



御影堂 日中英韓の各国語説明



築地塀 榎谷貴史による版築説明



築地塀 版築作業



築地塀 版築道具



築地塀 版築道具

7-(1)-②-b 金閣寺



金閣寺 配置図



金閣寺 リーフレット



金閣寺 (舍利殿)

7-(1)-②-c 梨木神社



神社敷地内マンション建設工事現場



視察風景

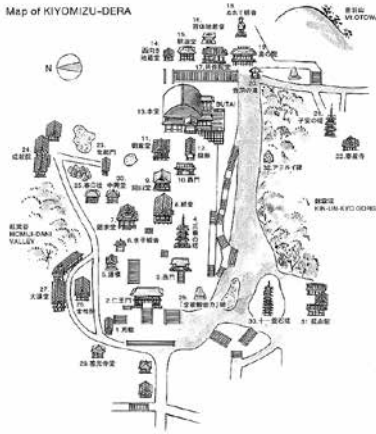


マンション (左) と神社 (右) の位置関係

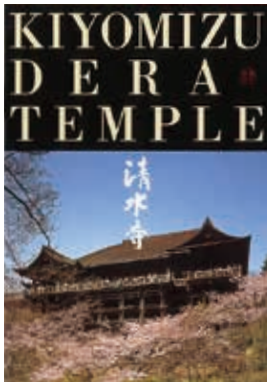


マンションの広告

7-(1)-②-d 清水寺



清水寺配置図



英文リーフレット



轟門を解説する島田豊



本殿左手の轟門覆い屋



轟門 全解体修理現場



轟門 柱の根継ぎ



阿弥陀堂 修理前の外観



阿弥陀堂 構造補強についての説明



阿弥陀堂 屋根全景



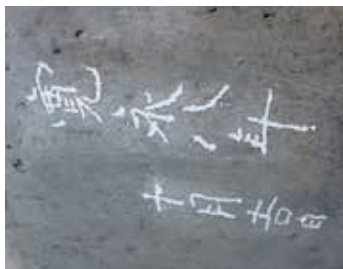
阿弥陀堂 解説する小宮睦



阿弥陀堂 桧皮葺き



阿弥陀堂 鬼瓦

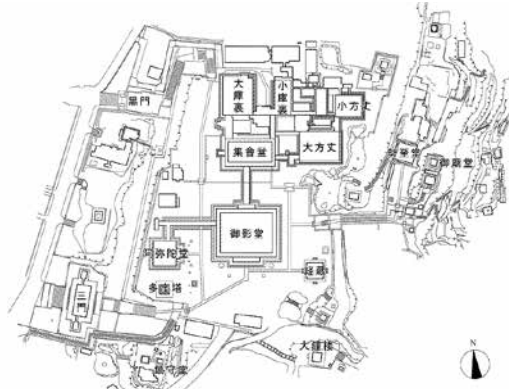


阿弥陀堂 鬼瓦の年号は寛永8年

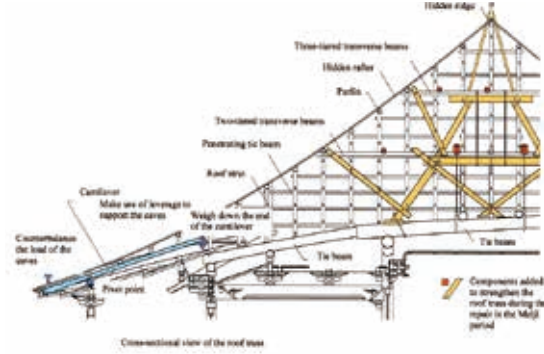


奥院

7-(1)-②-e 知恩院



境内配置図
知恩院 配置図



御影堂 (みえいどう)
配布資料 (屋根構造: はね木の説明図)



御影堂 修理前の外観



御影堂 覆い屋



御影堂 屋根



御影堂 解説する浅井健一



御影堂

7-(1)-②-f 奥谷組



千田日出雄社長



工場



工場 原寸図



資料館



資料館 日本建築の屋根構造解説



資料館 儀式道具

7-(1)-②-g 東寺



世界遺産建築のライトアップ



日本一の高さの五重塔

参考資料

京都府教育委員会『京都 保存修理の現場から』（2014、京都府教育委員会）

知恩院御影堂リーフレット（2014、京都府教育委員会）

金閣寺リーフレット

英文小冊子「KOYOMIZU DERA TAMPLE」（清水寺）

『新建築 Hello Mirai Tokyo』90巻3号、2015年2月別冊（2015、新建築社）

カンボジア観光統計報告（2015年8月、観光省）

http://www.tourismcambodia.org/images/mot/statistic_reports/tourism_statistics_august_2015.pdf

京都観光総合調査（平成26年、京都市）

https://kanko.city.kyoto.lg.jp/chosa/image/kanko_chosa26.pdf

訪日外国人消費動向調査2014年年間値（2015年3月、国土交通省観光庁）

<http://www.mlit.go.jp/common/001107177.pdf>

(4) 旅程

月 日	訪問先名称・訪問内容	宿泊場所
2015年		
3月22日(日)	21:35 カンボジア(シェムリアップ)発、22:35 ホーチミン着(VN3822)	機内泊
3月23日(月)	00:30 ホーチミン発、07:45 成田着(VN300)、08:50 成田空港発→09:53 東京駅着(成田エクスプレス) 10:20 上智大学着、11:30 上智学院理事長面会、14:00 国際交流基金表敬訪問、15:00 外務省表敬訪問、17:00 技術研修交流会、18:00 歓迎会 20:00 ホテル着	東京泊
3月24日(火)	07:30 ホテル発、08:30 東京駅発→10:50 京都駅着(新幹線のぞみ17号)、13:30 仁和寺、15:50 金閣寺、16:55 梨木神社、17:30 ホテル着	京都泊
3月25日(水)	09:00 ホテル発、09:30 清水寺、14:00 知恩院、16:30 奥谷組、18:30 東寺、19:00 ホテル帰着	京都泊
3月26日(木)	08:30 ホテル発、10:05 京都駅発→12:23 東京駅着(新幹線のぞみ122号)、新宿・虎ノ門視察、20:00 ホテル着	東京泊
3月27日(金)	05:20 ホテル発、06:18 東京駅発→07:15 成田空港着(成田エクスプレス)、09:30 成田発、14:30 ホーチミン着(VN301)、16:30 ホーチミン発、17:30 カンボジア(シェムリアップ)着(VN813)	(4泊6日)

宿泊先(東京): 東急ステイ四谷
〒160-0004 東京都新宿区四谷2-1
Tel 03-3354-0109 Fax 03-3354-0191

宿泊先(京都): アパホテル【京都駅前】
〒600-8234 京都市下京区西洞院通塩小路下ル南不動堂町806
Tel 075-365-4111 Fax 075-365-8720

◎アジア・文化創造協働助成「アンコール・ワット修復人材養成プロジェクト」による